# しあわせ

午前四時、カーテンを少し開け外を見ると、雪が舞っている。今日は娘の成人式。都会の大学に行っている娘は、美容院の予約が遅かったため、とんでもない時間の出発となってしまった。あいにく寒波の襲来である。

自分で運転していけると言う娘に、雪道は危険だ。もし事故を起こすと大切な日がだいなしになる。色んな理由をつけて私が送って行った。

娘がふわっと髪の毛をふくらまし、大きな髪飾りを付けて美容室から出てきた。中央で左右に分け、左側の髪が前に大きく被さっている。別人のようだ。

着付けは家内がする事になっている。

その日は村の初参会であった。私は娘の晴着姿を見ることなく、朝、家を出た。

夕方家に帰ると、娘が着物を着たまま私の帰りを待っていた。写真を一緒に撮るという。

娘と並んで、玄関、床の間と場所を代えて撮った。娘の華やかさに比べ、メタボで中年太りの親父はどこかさえない。数枚撮って、娘は着替えに二階に上がっていった。慣れない着物で早く着替えたかったであろうに、帰りを待っていてくれた娘。家を離れ一人生活している娘の成長を想うと、胸が暖かかった。

母と家内と私、普段話題の少ない静かな夕食が、娘のオンステージ。久しぶりの華やいだ時間。加えて家内が腕によりをかけた料理が光っている。母もすこぶる機嫌がいい。深夜迄団欒が続いた。

翌朝、娘は元気に大学に帰っていった。その後何の連絡もない。

しかし……。

娘は今、待受け画面で微笑んでいる。